インフラのデザイナー

石井弓夫=著

●山海堂㈱
●2003年3月10日発行
●本体価格2 400円

［紹介者］
西野文雄
NISHINO Fumio
フェロー会員
政策研究大学院大学教授

社会基盤（インフラ）の整備は産業の発展，生活の質の向上に不可欠であり，一般市民にとっても身近な問題である。税を使う事業という意味では納税者にとって最も関心のある事業ともいえる。そのインフラ整備に対して，最近はインフラ整備，と言うだけで，反発を受けるような厳しい批判がある。税を使ってインフラの整備事業を発注する側と，その事業を受注し，建設する側の両者に対する不信感が蔓延している。両者の癒着の摘発と，数は少ないものの不必要なインフラ整備が大きな理由であろう。インフラ整備に対する納税者の不信感を除く必要がある。建設コンサルタントのみでできることではないが，本書を読むと，建設コンサルタントが大きな役割を果たせるのではないか，との著者の思いが伝わってくる。

明治期を通して，日本のインフラは，強大な中央政府が，インハウス・エンジニアを使い，官がインフラ整備の発案，企画，設計，施工管理までを実施する形で整備されてきた。このような形でのインフラ整備事業の発展の中で，建設コンサルタントが産声を上げ，成長してきた軌跡を本書は丹念に追っている。本書を貫いているのは，インフラの整備にあたって建設コンサルタントが果たす役割が大きいことを，建設業を取りまく環境の変化を基に説明し，さらに諸外国との比較を加えて訴えようとする姿勢である。

第二次大戦の終了後，官民を含め，建設業界が立ち直れないでいるときに，占領軍の指令で膨大なインフラ整備事業に直面することになった。このときに，海外から引き揚げて来た技術者や復員した軍の技術将校が核となって，政府の事業を「手伝う」土木事業者の企業が出始めたのが，建設コンサルタントが現われた最初である。著者は淡々と「手伝う」と書いているが，この手伝いが，萌芽期の建設コンサルタントの本業となり，建設コンサルタントとしての本来の仕事に到達するまで，長い期間を要したことへの悔しさが，本書に何回か「手伝う」との記述があることから窺える。新卒で，建設コンサルタントに勤める技術者が少ない中で，建設コンサルタントに勤め，建設コンサルタントとしての夢を追いながら，政府の事業の「手伝い」から「パートナー」へと発展し，現在の業界の地位の確立に貢献した著者の気持ちが，文章のあちこちに散見される。

1971（昭和46）年に，当時の技術士会が国際コンサルティング・エンジニア連盟に加盟の申し入れをしたとき，日本の技術士会の定款ではコンサルティング・エンジニアとコントラクターのエンジニアの両者が所属していることが理由で加盟が認められなかった。本来設計をする分野は，発注者側にたつべきであり，コントラクターとは利害が相反する関係にある，というのがその理由である。著者は，インフラ整備事業の設計と施工の分離は国民の利益になると信じて，仕事をしてきている。加盟が認められなかったのも，著者の確信を強固なものにしたのではないかと思われる。建設コンサルタントの仕事は，現在では調査，計画，設計のみでなく，企画，立案，事前調査が加わり，さらに施工管理へと広がっている。しかし，設計が中核的な仕事であることには変わりない。皮肉なことに，設計と施工は利害が相反すると考えてきて，社会的に認められるようになった1990年代の初め頃から，設計と施工の分離方式の見直しが始まった。設計，施工の一括発注や，著者のいう民営公共事業，すなわち一般にPFIとよばれているインフラの調達方式等である。設計，施工技術の進歩と社会経済状況の変化に伴う建設事業の高度化，複雑化がその背景であると著者は分析している。

著者は，インフラ整備のための公共事業の実施における建設コンサルタントの役割を国民に知ってもらいたい，ということを考えて本書を書いたとあとがきに書いている。著者は大変な努力を注ぎ，博士の学位論文を基にして，インフラの整備と関係のない一般市民に対する読みやすい啓蒙書を書こうとしているのが良くわかる。誠に読みやすく書かれている。そうはいっても，カタカナや英語の語彙も避けられず，一般市民が読むとすれば多少の戸惑いがあるかもしれない。しかし，技術系の教育を受けた人にとっては，日本で建設コンサルタントがインフラ整備の中で大きな役割を果たすに至るまでの障害や，困難な道のりがあったことが容易に理解できる。

本書は明治期のお雇い外国人の話から始まり，高等教育の整備，技官と事務官の葛藤，第二次大戦後の米国のコンサルタントによる高速道路に対する技術的な可能性に加えて経済効果の検討の実施，技術士法の成立過程と業務独占に対する対応，設計と施工の分離に対して建設省事務次官通達が果たした役割，コンサルタントの独立性，中立性，倫理，登録規定，選定のための入札制度，国際化，グローバル化など，建設コンサルタントから見たインフラ整備の歴史という意味でも誠に興味のある内容になっている。土木系の技術者にとって一読に値する内容であると確信する。